

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現
-------------------	--	----------	---

評価項目			評価の具体項目	現 状	年 度 当 初 目 標(年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価 結 果 ()月	評 価	改 善 方 策
1	学 力 の 向 上	①	授業改革と 学力の向上	【授業評価アンケート結果及び活用】 ・生徒の授業満足度、向上し、概ね良好 ・家庭学習時間は1年生が増加、2年生が減少、3年生は増減なし 【基礎力診断テスト結果及び課題】 ・基礎力不足層は平成25年度より減少傾向にあるものの、意欲喚起に課題 【全国工業高校校長会主催標準テスト結果】 ・成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・ロッカー内、およびロッカー上の整備が向上 ・授業前の着席と挨拶は改善 ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題	【授業改革】 ・進路を切り開く主体的な学びを実践 ・80パーセント以上の生徒が授業に満足 【学力の育成】 ・進研模試において、SS50以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・専門教育に対応する基礎的な数学力の定着 ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層の減少 【学習環境の整備】 ・教室の整備と授業準備を励行 ・「5S」「あさひ」を実践	【授業改革】 ・学力向上のための教員研修会を、校内で年2回実施 ・学習理論に基づく授業づくりを推進、公開授業を実施 ・授業でのプレゼンテーションソフトおよびタブレット端末の活用 【学力の育成】 ・進学補習および学び直し補習を実施 【学習環境の整備】 ・「5S・あさひの日」を設けて「5S」「あさひ」を推進、わけても「整理・整頓・清掃」の「3S」とあいさつに注力 ・教室、ロッカー、机の整理整頓				
		②	主体的な学 習態度と実 践力の育成	【進路行事等の取り組み】 ・担任・教科担任で適宜面談・声かけ等を実施 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 【生徒の学習状況(自宅学習調査結果等より)】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 ・自主学習を行うためのスペースの確保 ・課題提出等期限厳守に課題 【シラバス】 ・評価基準・方法を周知	【学習意欲の喚起】 ・基礎学力の定着と向上 ・個々の進路実現に向けて、早期の進路目標の設定 ・自主的に取り組むことのできる学習環境の整備、及び、学習意欲の向上	【学習意欲の喚起】 ・面談等による生徒個々の進路目標の把握 ・多様な進路目標対応した授業の工夫改善 ・「一人一資格」に向け、資格取得の積極的な呼びかけ ・担任、教科、科、進路指導部との連携による自主的な学習態度の育成				
2	豊 かな 人 間 性 の 育 成	①	互いを尊重 する態度と 社会性の涵 養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 【ハイパーQU】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 【いじめアンケートの活用】 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備、悩みを抱えている生徒は少なくないと理解 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・9割の職員が「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供を速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権・存在を尊重できる生徒の増加 【ハイパーQU】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 【いじめアンケートの活用】 ・学校で学習できるのが楽しいと思える生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気 の確立 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科、LHR等に還元	【人権教育・性教育】 ・人権教育・性教育LHRを充実 ・WYSH教育LHR(1年生)をさらに充実 【ハイパーQU】 ・ハイパーQUアンケートの分析をし、クラスづくりへ活用 【いじめアンケートの活用】 ・いじめアンケートなどを通じて生徒情報を把握し、関係分掌と情報を共有 ・担当者以外の教職員と専門機関との連携を一層強化 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・一人一研修を積極的に呼びかけ、講演会等の情報を発信 ・人権LHRの指導案の充実				
		②	健全な心身 と社会貢献 精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均約40名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 平成26年度実績:テクノボランティア20名、またみみの郷ボランティア6名、「ダメ、ゼッタイ」普及運動ボランティア22名、献血街頭キャンペーンボランティア18名、砂丘ボランティア9名、県社協主催ボランティア17名、等 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 平成26年度実績:高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、校内美化、高校生議会、等 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が3件あり、登下校時の交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマホの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ・主体的に自らの生活と学習環境の改善に取り組める生徒の増加 ・いつでもどこでも誰にいても自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身につけた生徒の増加 ・頭髮検査の不合格者数半減 ・正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動の活発化 【環境改善】 ・廃棄物は平成23年度比5%減、電力は平成22年度比1%減 【安全教育】 ・自分で自分を守る力の向上 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・登下校時の無事故	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S・あさひの日」の実施 ・生活面における月間目標の設定と推進 ・生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ・日常的頭髮・服装指導の徹底 *ネクタイ、カッターの裾に重点 ・頭髮検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の場を広報、奨励 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の参加行事数の増加 【環境改善】 ・標語、環境LHR、環境講演会等により教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ・全職員による朝の交通指導の実施 ・各種安全教室の実施 (携帯マナー講習・自転車安全・非行防止・薬物乱用防止教室等) *安全教室後にアンケート、感想文を実施 ・実験・実習器具等の取扱指導の徹底				
3	キ ャ リ ア 教 育 の 充 実 と 進 路 実 現	①	専門的な知 識・技術の 習得	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・例年と比較し、レポート内容指導が必要 ・レポートを期限内に提出できない生徒があるが、各担当科で提出・再提出の指導を行い改善傾向 【人材育成】 ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・計算技術検定では科と学年が連携、他の資格においても早朝・放課後補習を多くの科で実施した結果、一人一資格取得を概ね達成 (測量士補4名合格、計算技術検定合格率85%) ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見학을工業関連企業19社・学校関係3校・公共施設6箇所で行実施 ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナーの徹底を指導 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・ものづくりコンテスト中国大会の2部門に各1名出場し、電子回路組立部門で3位入賞と健闘	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート、作品等の提出期限の遵守 ・レポートの書き方と内容の充実 【人材育成】 ・3年次までに一人一資格以上を取得 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・「5S」の定着	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示 【人材育成】 ・資格・検定について意識を高めるガイドブックを配布 ・全生徒の一人一資格を達成に向け、資格取得のための補習を実施 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容を精選・充実 ・実習や課題研究を中心に5S(整理・整頓・清掃・清潔・頓)の指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導				
		②	勤労観・職 業観の育成 と進路指導 の徹底	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・一次採用試験合格率が82.4%となり、前年度より10%以上向上	【職業意識の育成】 ・企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じて職業観、勤労意識を高揚 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・就職は一回目の選考試験合格率90%以上、進学は10名以上が国公立大学に合格	【職業意識の育成】 ・働くことの意義の学びを意識したインターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師の実施 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種の進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ・ポートフォリオの研究と活用 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、定期的に自分の進路を検討、再確認 ・理数工学科においては、理数工学Ⅰ、理数工学探究への取組及び高大交流事業・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習にフィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点での進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月には最終的な進路を決定				
		③	地域や産業 界との連携 強化	【人材育成】 ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 【情報発信】 ・各事業の実施や学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津ノ井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数6校)や中学生体験入学、鳥工TEC等の実施により科の内容を中学生へPR 【地域との連携】 ・津ノ井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールや保護者との連携により学校行事への保護者参加が30%以上増加	【人材育成】 ・将来の自分の姿を考え、目標をたてて近づこうとする主体的な生徒の増加 【情報発信】 ・学校の取組がわかる学校HPづくり ・出前授業の拡大 ・鳥工TECに対する中学生の興味の向上 【地域との連携】 ・各事業の充実 ・地域との連携を生徒が実感 【PTA活動の推進】 ・各行事への保護者参加数の増加	【人材育成】 ・各事業を継続実施し、生徒への事前事後指導を強化 【情報発信】 ・各事業を、学校HPでの情報発信まで含めて計画 ・出前授業の内容充実を図った検討 ・中学生や地域へ向けて、鳥工TECをより一層PR 【地域との連携】 ・慣例にとらわれない各事業の実施 ・あいさつ運動に生徒が参加 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールやHPを充実するとともに、PTA役員との連携による保護者への案内				

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く WYSH教育:性に関する教育 ハイパーQUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のものづくりの紹介

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]